

福井大学病院だより 第14号

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-12-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10098/9285

最高・最新の医療を安心と信頼の下で

福井大学病院だより

UNIVERSITY OF FUKUI HOSPITAL

第14号

2009.11月
発刊号

病院長あいさつ

病院の近況

新任・退任教員案内

UNIVERSITY OF FUKUI HOSPITAL

TOPICS

院内メディカルラリー

診療科・部門・施設のご案内

認知症という病気を知っていますか？

あなたの足は健康ですか？～糖尿病と足のトラブルについて～

[看護部]

血液・腫瘍内科のご案内

[血液・腫瘍内科]

特殊診療施設案内

[遺伝診療部]

ワンコインバスの運行について

患者さんのこえ

出来事 イベント情報



福井大学医学部附属病院

☎0776-61-3111(代表)

様々な情報が満載です。ホームページもご覧ください。

<http://www.hosp.u-fukui.ac.jp/>



[今月号の職員]

医療ソーシャルワーカー

三嶋 一輝 みしまかずき

病院の近況

福井大学医学部附属病院長
山口 明夫 やまぐち あきお

秋もすっかり深まり、朝夕の寒さを感じる頃となりましたが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。日頃より福井大学医学部附属病院へのご高配に深く感謝申し上げます。今年の春から始まった新型インフルエンザの世界的な流行が今も続き、日本でもこの夏から予想より早く再流行が始まり、県内全域に広がりつつあり、皆さんも心配されているのではないのでしょうか。しかし幸いにも重症となることは極めて少なく、あまり過度に反応することなく、正しい情報を得て、冷静な行動をとられることが大切です。重症化する危険性が高いとされている慢性の呼吸器疾患や心疾患等の病気を持っている方、妊娠中の方、乳幼児にあっては、感染が疑われる時には早めにかかりつけの医師を受診することをおすすめします。日常生活では外出から帰ったあとの手洗い、うがいを必ずおこない、人ごみに行かれる時はマスクを着用するように努めてください。

さて本院の最近の動きですが、この春より2つの診療科に新しい教授が赴任しました。心臓血管外科に就任しました腰地教授は多くの心臓や血管の病気に対する手術を経験され、その手術死亡率も低く、前任地の

熊本中央病院ですばらしい診療実績を上げられ、患者さんからの信頼も大変厚かったとお聞きしています。また脳脊髄神経外科の菊田教授は顕微鏡を用いたマイクロサージェリーを専門とされ、動脈瘤をはじめとする脳血管の病気に対する手術には定評があります。お二人には今後福井大学病院の顔として、地域医療の向上に貢献できるよう活躍していただきますのでよろしく願いいたします。また外来2階の旧光学診療部のあとに超音波センターを新しく設置して、診療を開始しました。心臓、血管や腹部の病気に対する超音波は痛みや苦痛がまったくない検査法で、中央化することにより、標準化・効率化が進み、今まで以上に多くの患者さんの検査が可能になりました。超音波を含めまして外来でのCT

やMRIの検査なども極力受診された当日に行うことができるようにして、待ち時間の短縮に努力していきます。

さて先日女優の竹下景子さんと本県出身のピアニストである笥千佳子さんが小児科病棟の患者さんたちを励まそうと病院を訪れ、絵本の朗読会とピアノの演奏が行われました。外来や入院されている患者さんなど約120の方が優しく、感情あふれる「葉っぱのフレディ」の朗読と美しいピ



アノの音色に魅せられました。お二人のお蔭で多くの方があらためて命の大切さを実感されたようでした。また10月下旬には、坂井市丸岡町の「日本一短い手紙」と愛媛県西予市の「かまぼこ板の絵」との融合作品展が福井大学共催で催されました。これまで全国各地でこのコラボ展が行われてきたようですが、日本一短い手紙と日本一小さなキャンバスでの物語が誕生して、多くの人に感動と癒しをもたらしているとのこと。このコラボ作品による癒しは病気との関いに大きな効果をあらわすとも言われ、患者さんにどのような影響を与えているかについての調査も行われました。今後もこのようなイベントを随時病院内で開催したいと考えていますので、その節は多くの人の参加をお願いします。

医師臨床研修制度の必修化が始まって以来、大学病院からの臨床研修医離れが加速され、その結果診療科間格差とも相俟って地域医療機関への医師派遣機能が低下するようになり、その是正に向けて来年より臨床研修制度が見直されることになりました。必修科目が減ったことにより、2年目から自分が専門としたい診療科での研修が可能になるなどプロ

グラム内容の自由度があがり、また最近問題となっています産科医や小児科医の不足に対して、これらの診療科独自の研修プログラムも新しく始まりました。福井大学附属病院の研修内容や臨床教育研修センター開設などによる教育環境の充実によって、来年は今まで以上に多くの研修医が本院を選んでくれることが期待されます。また福井県内の研修医定員を増やすという厚労省の意向もあって、本院の定員も52人から56人に増やすことになりました。このように少しずつではありますが、大学病院のマンパワーも確保しつつありますので、地域医療の最後の砦として機能を向上させることにより、今まで以上に貢献していきたいと考えています。

さてここ数年検討を続けてきました病院の再整備もその計画がようやく固まりつつあります。本院も病院開設以来25年を過ぎて、老朽、狭隘がすみ、患者の皆さんには何かと不自由をおかけしているのではないかと思われますが、この再整備でこれらの問題点が解決できればと考えています。まだ乗り越えなければならないいくつかの壁がありますが、福井大



学病院が地域医療の中核を担うハイクオリティーメデイカルセンターとして、さらに発展していくために全力を傾けてまいりますのでご支援お願い申し上げます。再整備を機に教職員一同モチベーションを高くもって診療に当たり、特定機能病院としての役割を果たしていきたいと、あらためて気を引き締めている次第です。

今後も最高の医療を福井大学病院で受けたいという患者さんの期待に応えられるように、私どもも日々努力を重ねてまいります。皆さんの目から見てまだまだ足りないところも多いかと思われます。この病院だよりには患者さんのこえとして、ご質問やご意見にお答えする欄もございますので、本院に対する忌憚のないご意見をいただけますようお願いいたします。

退任にあたって

前脳脊髄神経外科 教授 久保田 紀彦

福井医科大学と福井大学に奉職して24年が経過した。新設医科大学のメリットとデメリットに影響されながら、去る3月に無事退官できた。多くの信頼できる仲間に支えられて辿り着いた心境は、幸福感に溢れている。現在は、重責から開放され、悠々と前期高齢者生活を送っている。現役時代より時間の余裕ができ、毎週のように全国学会に出席している。

退官後、週に1—2回、「客」の気分で福井大学医学部と病院を訪れる。現役時代には、いつも何かに追われているような切迫感があり、花や木などを鑑賞するゆとりがなかった。また、出来るだけ目的地に近い場所に駐車することに腐心していた。心に余裕ができたこの頃は、ゆっくりと建物の周囲を散策できる。可憐で清楚な白い花を沢山つけた樹を鑑賞できた。小枝を一本失敬して、植物好きの妻に聞くと「エゴノキ」だと教えてくれた。ネットで検索すると、これから秋にかけてこの木に緑色から、白色、さらに赤色の可愛い実が色とりどりに、どっさり実るといふ。

午前10時頃のキャンパス風景を眺めると、現代風の普段着の学生十数名が授業に遅れまいと、早足で芝を踏みつけながらビルの中に消えていった。私の学生時代には、皆、背広姿で講義を受けていた。アメリカの医学生には、背広着用、禁煙が強制されているという。こんな姿の現代医学生が、将来患者の前でキチンと診察できるのか、一瞬不安がよぎった。近頃は、医者を見る世間の目が厳しくなっているので、日本の医者も「身なり」を整える必要がある。私は、服装や髪型について、キチンとするように何時も教室員を指導してきた。出張先の病院で、患者や看護師から医者の「身なり」を批判されるから

である。とくに大学病院に奉職する身では、通勤途中から患者やその家族から「身なり」を見られていることを自覚すべきである。医療事故統計によると、医療事故を起こしやすい医師は、「身なり」が整っていない者が多いという。平常心にたるみのある人は、仕事にもそれが表れる証拠である。また、机の上がどのように整理されているかも、その人の仕事ぶりを測る貴重な尺度である。教室員には、「机の上をキチンと整理する」ように口うるさく言い続けた。特に外科系の医師は、手術中は勿論、手術前の準備や手術後の管理に落ち度があつてはならない。いつも頭を整理して仕事をする習慣を持っていることが肝要である。私の先輩は「机の上を見れば、お前の頭の中がどれくらい整理されているかすぐに判る」と言っておられた。ある先生は、机の上に全く何も置いていなかった。その先生は、常に頭脳明晰な仕事ぶりで、驚くほど速く書棚から要求された資料を出しておられた。資料の整理はPC上でも同じことである。整理をこまめにしないと貴重な資料が使用不可能になってしまう。また、個人情報漏洩の防止が叫ばれている昨今、医師やコメディカルは、医療情報の使用には細心の注意を払う必要がある。情報の扱いについても、普段から頭の中が整理されていれば、貴重な資料を紛失したり、自宅のPCから漏洩するような不注意は防げる。

6月4日の日刊県民福井のトップ記事に「福井大活力 東大に並ぶ」という記事が掲載されていた。2004年度から2007年度までの大学の活力の文科省評価である。国立大学で11位になったことは、福井大学の大きな誇りである。当然、福井大学病院の貢

献度も大きかった結果であり、病院職員の大きな励みになるであろう。2年前の福井大学関連病院長会議で、ある医師が「福井大学病院の顔がみえない」と発言されていた。しかし、福井県の医療を現在のレベルにまで押し上げた第一の貢献者は福井大学医学部と病院であろう。福井県は都会の医療砂漠とは異なり、安心して高度な医療が受けられる県である。今年は、福井大学病院25周年記念事業や行事が催される。この機会に、是非とも現在の大学病院の現状と関連病院への貢献度をマスコミにアピールして頂きたい。研修センターの新設や保育施設の開設など、若い職員が働きやすい環境が整えられつつある。また、国際交流会館が設置されており、国際交流にも大きく貢献しているので、海外にも福井大学病院をアピールして頂きたい。

私が脳脊髄神経外科学教室を担当してから、福井で全国学会を5回、大きな地方会を6回開催させて頂いた。また、ほとんどの日本の脳外科教授をお呼びして講演や講義をして頂いた。そのお陰で、多く海外や日本の脳外科医に福井の素晴らしさを知ってもらえた。初めて福井を訪れた脳外科医は、福井の環境、食材の豊かさに驚嘆されていた。福井県は暮らしやすさでは日本のトップクラスにあり、当然、医療もトップレベルに評価されている。その中心が福井大学医学部と病院である。医学部や病院職員は、これからも福井県人にくらしの豊かさを提供し続け、また、国内や海外交流をさらに活発にして頂きたい。



エゴノキの花 エゴノキの実

新任のご挨拶

心臓血管外科 教授 腰地 孝昭

本年5月より器官制御医学講座外科学(2)を担当することになりました腰地(こしじ)と申します。この講座では主として胸部外科(呼吸器外科と心臓血管外科)の診療を行っています。

私は石川県七尾市(能登半島)の生まれです。昭和59年に京都大学医学部を卒業し、当時国立大学では最も早く新設された心臓血管外科に一期生として入局しました。心臓外科医を志した理由は単純なあこがれと夢の実現を野球やサッカーで鍛えた体力勝負に持ち込もうという不純な動機によるものでした。大学での研修と最初に赴任した松江赤十字病院で一般外科、心臓血管外科の基礎を学び、平成3年に京都大学に戻りました。その後大学院、助手(病棟医長)を経て平成11年には南仏のマルセイユに留学する機会を得ました。フランス語が全く分からない中での単身生活でしたが、元来脳天気な性分のように、週末になると真っ青に澄み切った地中海の空と海を眺めるだけでリフレッシュされ、心身共にたっぷり充電できたように思います。

平成12年に帰国してすぐ、熊本中央病院心臓血管外科部長に着

任し、以後約10年間市中病院の第一線で心臓血管外科の診療に携わってきました。この間に1,700例以上の心臓手術を含む3,000例余の貴重な手術を経験できたことは、心臓外科医を志した私の最初の夢を実現するに十分なものでした。もちろんこれは多くの方々から指導を受け、また数え切れないスタッフの努力に支えられてどうにか辿り着いた道であり、たいへんな幸運だったと感謝する次第です。

さて、私の専門分野は冠状動脈バイパス術、心臓弁膜症手術、大動脈瘤手術など成人の心臓・大血管手術です。私が心臓外科を志した1980年代では日本国内で年間約2万例であった心臓手術も現在では5万例を越えています。この間、人工心肺を用いない冠状動脈バイパス術(オフポンプバイパス術)の登場や人工弁を用いない弁形成術の発展なども相まって、心臓手術は格段に安全で身近な手術になってきました。その一方で患者さんの高齢化や重症化が急速に進み、外科医に求められるものも格段に増加しています。そのため今後も循環器内科、救急部など関連各科とも緊密な連携を保

ちながら、さらに安全で確実なチーム医療が行えるよう努力して参りたいと思います。

さらに、外科医不足が次第に深刻となりつつある現状ではありますが、医局員と一致協力して心臓血管外科、呼吸器外科の診療にあたるとともに、微力ながらこれまでの経験を生かして次世代の有能な胸部外科医を福井の地で育成する使命を果たしたいと考えています。

最後に、三浦雄一郎氏がエベレスト再登頂に成功して語った言葉、「涙が出るほど、つらくて、厳しくて、うれしい・・・」は外科医の使命感と達成感にも共通する印象的な言葉です。私も10年かけて自分の目指す小さな山に登ってみたいと思います。



【手術中の私の横顔】
熊本中央病院事務職員 美絵さん作

最新手術設備のご紹介と 脳卒中診療を端緒とした 新たな発展を目指して

脳脊髄神経外科 教授 菊田 健一郎

4月から新しく京都大学よりまいりました菊田と申します。奈良県出身の43歳です。専門は顕微鏡手術で、脳血管の病気を中心に、脳腫瘍や脊椎の病気も治療しています。趣味はテニスやスポーツのほか読書好きです。若輩者ですが「患者さんを治すこと」「十分に説明すること」「最高の手術をすること」については強い情熱を持っているつもりです。ここでは新しい福井大学脳脊髄神経外科についてご紹介いたします。

脳・脊髄・末梢神経まですべての領域で専門家が対応します

救急部とともに、24時間365日、患者さんを診療しています。さらに脳血管(菊田)、血管内治療(新井)、脳腫瘍(竹内・北井・小寺)、内視鏡・小児(北井)、脊髄末梢神経(有島)など脳脊髄のすべての分野で専門家を配置し専門外来を開設し、ご相談に応じます。

高度画像診断により手術前に十分病気を検討します

緊急でない病気の場合は、患者さんにまず短期間の検査入院をしていただいています。福井大学の誇る3テスラMRI、PETなどの最新鋭画像装置を用いて精密検査を行い、病気の状態や手術リスクを十分調べます。スタッフ全員で最良の治療方針を検討した上で、主治医から丁寧に説明いたします。

福井大学の手術:インドシアニング リーン蛍光血管撮影

5月より福井県で唯一、蛍光血管撮影が可能となりました。脳動脈瘤などの脳血管手術の成否が即座に確認

でき、成功率と安全性が飛躍的に高まりました。



【脳動脈瘤クリッピング術】
蛍光血管撮影で完全クリップを確認

術中CTとナビゲーション装置

福井大学の手術場には術中、術後の確認のため平成9年からCT装置が導入されています。脳腫瘍手術を中心に既に600名以上の方に使用され、世界有数の実績です。また来年度は術中CTを撮りながら、カーナビに類した手術ナビゲーションを行う、リアルタイムナビゲーションシステムが導入されます。

手術場専任技師が麻痺や後遺症が出ていないか監視します

福井大学には脳外科手術をよく知った手術場専任の技師が、特殊な脳波を用いて、手術中に麻痺や障害が生じていないか監視します。当院の誇るべきスタッフです。

脳卒中診療へ積極参加と院内リハビリカンファレンス

4月から第二内科(神経内科)とともに、県の脳卒中連携協議会に参加しました。県下20の関連病院と連携して脳卒中診療に積極的に参加していきます。また、整形外科リハビリ部のご配慮により、毎週入院患者さんのリハビリカンファレンスを行っています。リハビリスタッフ、脳外科、神経内科、病棟ナース、地域医療連携部が一同に会し、一人ひとりの状態を全員で把握して一人でも多くの方が回復されるよう努めています。

病院各部門スタッフの力をお借りしながら、診断、治療、リハビリに至るまで、患者さんを治すべく全員一丸となり努力してまいります。どうぞよろしくお願いたします。

新任・退任教員案内

TOPICS

院内メディカルラリー

救急部 高山 裕喜枝 井上 理恵 川崎 智美



私たちは、昨年11月に名古屋で行われた全国救急看護学会で、都立広尾病院が院内メディカルラリーを行っているとの発表を聞き、ぜひ自分たちの病院でも開催したいと直感的に感じました。というのも大学病院は、①医師と看護師の協力が得られること、②各病棟単位でチームを作り競技が可能であること、③医師・看護師がともに学習できるラリーは、教育機関である大学病院の研修企画として最適と感じたからです。

帰学後、木村准教授、寺澤教授に私たちの考えを話したところ賛同が得られました。救急部全体で取り組み始めました。

まずメディカルラリーについて説明します。

メディカルラリーとは、医療チームが特殊メーキャップを施した模擬患者を診察して、限られた時間内にどれくらいの確に治療をすることができるかを競う技能コンテストのことです。院内で起こりうる急変に対し医師、看護師がチームを組み、指定された場所(シナリオステーション)へ出動します。そこでは模擬患者が決められたシナリオ(もちをのどに詰まらせた患者さん、点滴の薬でアレルギーが出た患者さん、心臓が急に悪くなって意識がなくなった患者さん)に従って演技を行います。各チー

ムは、その患者さんの診察を行い、心肺蘇生(心臓マッサージや人工呼吸)、薬剤投与、などの処置や看護を行います。

各チームは、3つのシナリオステーションを順番に回り、チームの医療行為について採点します。3つのシナリオに対する処置の総合得点で順位を競います。

医師と看護師が協力してのシミュレーション研修は、初めての試みでした。臨床研修センター(2009年設立)を全館使用し7月25日に開催しました。メディカルラリーは、教育の一環ですが点数を競うことより、「急変時の対応について楽しく学ぶ。共に学ぶ」ということの観点で企画しました。

各チームの医師や看護師は、勤務終了後に夜遅く、あるいは休日に自主的に事前練習を行っていました。急変対応のひ

とつの大事な要素にチームワークがあります。事前練習の段階でチームワークよく医師と看護師のよい連携が出来ていました。研修を終えた医師・看護師は、とても生き生きとして「楽しかった。勉強になった。現場で役に立つ。」という感想を多く聞くことができました。私たちも、準備段階から勉強し、実際の競技中に自分の対応を振り返ることができたので、参加者以上に充実し学ぶものが多かったように思います。ラリーでは、参加者、企画者ともに一体感ができました。楽しく学べたラリーを開催できたことに福井大学附属病院の医師・看護師の熱いパワーを感じました。

最後に、院内外の救急医師の皆様(小浜病院 大森先生、県立病院 又野先生、丹南病院 黒田先生、原子力安全研究協会 北野先生)休日にも関わらず快く協力していただいた総数31名のボランティアスタッフの皆様に深く感謝申し上げます。



メディカルラリーの様子

認知症という病気を知っていますか？

[看護部] 地域医療連携部 認知症看護認定看護師 中村 巳早都

認知症はご本人だけでなく、その方を取り巻く人々の生活にも影響を及ぼします。
いつか自分自身に振りかかってくるかも知れない認知症について、一緒に考えてみませんか？

認知症は身近な問題

認知症と聞いて、今の自分にはまだ縁のない、他人事と思う方は多いでしょう。しかし、わが国における認知症の患者数は年々増加し、今では85歳以上の高齢者の4人に1人が認知症患者だとされています。

この病気を正しく理解している人は少なく、身近な人が患った時にはいったいどうしたらいいかわからない。というのが実情ではないでしょうか。

認知症とは何か？

単なるもの忘れではありません。脳の働きが侵される病気です。

診断手順として本当に認知症なのか。原因となる病気は何かを調べます。

- いつ、どのようにして症状が出てきたのか。
- 現在はどのような症状があって、どのような症状で困っているのか。

このようなご家族からの情報が、

診断やその後の介護に役立つことがあります。

認知症は早期発見・早期治療が大切です

「おかしい」と気づいてから医療機関に相談するまでに、約7割の家族が2年以上かかっているとの報告があります。早めに対応するメリットは

- ①症状の進行を遅らせる薬があります。
- ②治る認知症(1割)もあります。
- ③本人や家族に余裕が生まれます。

認知症の人と接する時は、脳の全ての機能が損なわれているのでは無いことを知った上でコミュニケーションを図ることが重要です。専門医療機関での早期受診は、ご本人・ご家族の「将来の安寧への道標」となるかもしれません。

認知症予防

危険因子は生活習慣病(肥満、飲酒、高血圧症、高脂

血症など)があります。認知症を遠ざける食習慣では、魚の摂取、野菜果物の摂取、ワインの摂取などが関係していることが分かっています。

認知症相談

「最近物忘れがある。これまでと行動がちがう。どこに行ったらいいのかわからない。どうしたらいいのかわからない。」ご家族の介護に関するお悩みはフォーマルな制度だけでは解決できない「言えないつらさ」もあるのではないのでしょうか。現在、このような認知症についてのご相談を病院内外から承っております。



あなたの足は健康ですか？

～糖尿病と足のトラブルについて～

[看護部] 在宅療養相談室 皮膚・排泄ケア認定看護師 辻本 夕子

糖尿病の患者さんが増加しています。糖尿病には様々な症状・合併症がありますが、その中で、足のトラブルが深刻な問題となっています。糖尿病で高血糖の状態が長年続くと、神経障害、血流障害、抵抗力の低下などの合併症を起し、足のトラブルの原因となります。

末梢神経障害により、痛みを感じにくくなり、足の異常の発見が遅れます。血流障害を起すと小さな傷でも悪化し、重症になると足の切断につながることもあります。また抵抗力が低下しやすいため、水虫などの感染が起きやすくなります。

私が今まで関わった患者さんで、出来たタコから潰瘍ができた方や、あんか・電気毛布でやけどした方、

足の感染症を起こした方などがいます。普通ならすぐに治る程度の傷であっても、治癒に時間を要し、足切断に至ったこともありました。私はいろんな患者さんとの関わりの中で、「患者さんの足を守りたい!」という気持ちが強くなりました。現在、私は月に約40名の患者さんの足を診ています。ほとんどの方がなんらかのトラブルを抱えており、悪化に繋がらないためのアドバイスやケアをさせていただきます。

そんな私からのメッセージですが、足のトラブルを防ぐには、まず「よく足を観察すること」です。異常に気づけば早期に治療することができます。タコ・ウオノメを自分で処置する方や、水虫を放置して

いる方が多いですが、これは大変に危険です。病院で適切な処置・治療・ケア方法の助言を受けることが必要です。

一旦、足を悪くすると生活に影響を及ぼします。皆さん、自分にとって足とはどのようなものを一度考えてみてください。そして、ずっと地を踏みしめてがんばってきた足を大切にしてください。



フットケアの様子

看護部研修のご案内

看護部では看護師を対象とした様々な研修を企画しています。この研修に福井県内の看護師の皆様にも参加していただき、交流を深めたいと考えております。福井大学医学部附属病院看護部のホームページの「研修申込」で参照できます。参加希望の方は研修申込書を出力してファックスで申し込んでください。多数の方の参加をお待ちしております。

<http://www.hosp.u-fukui.ac.jp/05kangobu/kangobu.html>

血液・腫瘍内科のご案内

[血液・腫瘍内科] 血液・腫瘍内科 科長(教授) 上田 孝典

福井大学医学部附属病院 血液・腫瘍内科は国内の大学病院血液内科において、抗がん薬による治療を臨床的にも研究面においても中心に据えている数少ない内科です。教室員は皆、抗がん薬の使い方に精通した医師たちです。対象疾患は白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの血液がんが中心ですが、大量療法など固形がんの特殊な抗がん薬投与にも対応いたします。また貧血や出血症状などすべての血液疾患を血液専門医として診療いたします。更に、抗がん薬と理論的背景が共通であることから痛風・高尿酸血症も専門としており、全国でも数少ない専門施設となっています。

診療体制

外来診療では、各教官が交代で毎日診療を行い他院から御紹介いただいた患者さんも診察しています。これにより白血病などの急患がどの曜日に来院されても即座に対応できるようにしています。紹介いただいた先生と密に連絡をとりきめ細かい診療を心掛けています。

病棟診療では、無菌室6床、準無菌室8床を有し、常時35-40名の患者さんがご入院されています。1人の患者さんを教官、大学院生・医員、研修医の複数医師で担当いたします。週一回、科長(教授)による回診があり、カンファレンスでは医師だけでなく、薬剤師、検査技師も交え一人一人の患者さんの診断と治療方針を検討しています。「がんを薬でなおそう」を目標に、基礎理論とエ

ビデンスに基づいた合理的な診療を実践しております。

当科の特色

① 抗がん薬治療

当科では血液がん(白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫など)に対する抗がん薬治療を診療の中心としています。その中でも、最も強力な抗がん薬治療を行う必要のある白血病の治療を得意な分野としています。例えば、急性骨髄性白血病では治療中に正常好中球数が0の状態が約2週間持続します。その間、無菌室を用いてきめ細かい治療を十分に行い、治療毒性死を回避する必要があります。当科の医師はこのような非常に厳しい治療に熟達しております。また、白血病や悪性リンパ腫では抗がん薬を通常量の5-10倍投与する大量投

与が必要になることがあります。抗がん薬治療を専門とする当科では安全に行うことができます。

固形がんについては、大量療法や特殊な病状に対して必要に応じて各科と連携して対応しています。

② 分子標的療法と造血幹細胞移植療法

最近注目を集めている分子標的療法についても精通しています。がん細胞にのみ存在する特異的な異常遺伝子や分子を標的とした薬剤を用いるミサイル療法のことで、効果的で副作用が少ないことが特徴です。慢性骨髄性白血病にたいするイマチニブ、急性骨髄性白血病に対するゲムツズマブ、悪性リンパ腫に対するリツキシマブなどが代表です。さらに今春から使用可能になったばかりの新薬、ニロチニブ、



血液・腫瘍内科のスタッフ

ダサチニブの使用経験も豊富です。

また、悪性リンパ腫や多発性骨髄腫に対して自家末梢血幹細胞移植療法を行います。また急性白血病などに対してHLAの一致した同胞がおられる場合同種骨髄移植療法を行います。

③ 治験薬を用いた先端的治療、全国規模の臨床試験への参加

大学病院の使命として、高度先進医療を行うことも、患者さんの治療法の選択が広がるという意味で非常に重要です。従来の治療法では十分な効果が得られない場合、あるいは従来の治療ができないような場合、開発治験中の新薬を、当院の治験審査委員会、倫理委員会の承認のうえ、患者さんの同意のもと、使用いたします。



骨髄検査の判定

また、臨床試験中の新しい治療法を患者さんと相談のうえ行います。特に白血病については従来の治療法ではいまだ十分な治療効果を得ることができません。当科主管の北陸造血器腫瘍研究会や全国的な臨床研究(日本成人白血病治療研究グループや日本臨床腫瘍研究グループ悪性リンパ腫研究班)に参加することで積極的に臨床研究を行い治療成績の向上に努めています。

④ テーラーメイド治療の確立

本来、副作用の強い抗がん薬こそ患者さん個々人の体の状態に応じてきめ細やかなさじ加減が必要なはずです。我々の施設では全国に先駆けて、抗がん薬の濃度を体内、またがん細胞内で測定することで最も適切な抗がん薬の投与を個々に応じて決めるテーラーメイド治療を推進しています。

⑤ 痛風・高尿酸血症

従来日本ではまれであった痛風・高尿酸血症は食事やライフスタイルの欧米化とともに昨今は

全く一般的な疾患となりました。にもかかわらず必ずしもすべての患者さんに十分な治療がなされているわけではないように見受けられます。当科は痛風・高尿酸血症の専門施設として、また科長を含む2名が痛風・高尿酸血症治療のガイドラインの作成委員であることから、患者さんに必要かつ十分な診療をおこなうことができます。

地域の中核施設として、福井県唯一の大学病院の内科として

白血病を中心とする血液がんに対する高度専門診療と同時に、貧血、白血球減少、血小板減少などの血液異常や不明熱などの内科難病についての精密検査・治療を希望しての近隣の先生がたからの患者さんの紹介受診も多数あります。一方で、北は加賀から南は舞鶴まで幅広い先生がたからも血液がんを中心とする患者さんを数多くご紹介いただきお受けしております。このように、当科は地域の中核施設として、また福井県における唯一の大学病院の内科としてその重責を担っています。

特殊診療施設案内

[遺伝診療部] 遺伝診療部 部長 米田 誠

目標

遺伝診療部は、遺伝的素因がかかわる疾患に関して、患者さん・ご家族に、診断・治療・家系内発症の危険度などにかかわる適切な遺伝情報を提供することを目標としています。

診療体制

この4半世紀の間に、多くの遺伝病の原因が突き止められました。さらに、21世紀に入り、ひとの遺伝子地図も解明されました。それに伴い、遺伝医療の対象は、従来の先天的遺伝病や染色体異常症に留らず、複数の遺伝的素因(疾患感受性遺伝子)による生活習慣病や薬の効果・副作用を規定する遺伝的素因の解析・応用(薬理遺伝学)などの“個別化医療”にまで広がってきています。

日本における遺伝子研究は欧米と遜色ない高い水準ですが、遺伝医療に関しては発展途上国並みの低い水準とされています。その最も大きな理由は、遺伝医療を専門とする医師(臨床遺伝専門医、北陸に8名、福井県内2名)の絶対数の不足と遺伝診療の専門科が大変少ないことがあげられます。このような背景から、福井大学医学部附属病院に

も、平成21年4月、複数の臨床科のご協力のもとで、遺伝診療部が設置されました。

遺伝診療部では、患者さん・ご家族の希望に応じて、遺伝性疾患のみならず、遺伝的素因が関連する事項に関して、遺伝専門医を中心に外来で遺伝カウンセリングを行っております。1回の時間は、約1時間程度です。遺伝カウンセリングは保険外で行っており(1回5千円)、事前予約制を取っております。患者さん・ご家族のプライバシー保護と自律性(「知る権利」と「知らない権利」)には、十分な配慮をしております。また、学内倫理委員会承認のもとで、一部の遺伝子解析(ミトコンドリア病や脊髄小脳変性症など)も行っております。

診療の特色

遺伝カウンセリングの最も重要な目的は、患者さん・ご家族(クライアント)に、適切かつ最新の遺伝情報を提供することで、診断・治療に役立てるばかりでなく、今後の人生設計を考える手助けをすることです。遺伝医学に関する情報が乏しいために、遺伝学的には発症しない方が、病気の発症を恐れて悩んでおられることもあります。残念ながら、現状では、



研修施設認定証

多くの遺伝性疾患は診断できても、根治的治療法は困難です。しかし、昨今の医学の発達により、以前は治療法がなかった疾患でも、ファミリー病における酵素補充療法のように、治療が可能となってきております。

遺伝カウンセリングにおいては、遺伝的な検査を受けることによる利益と不利益も事前に充分説明します。個々の遺伝カウンセリングは、日本人類遺伝学会等の遺伝医療に関するガイドライン(指針)をもとに進めます。

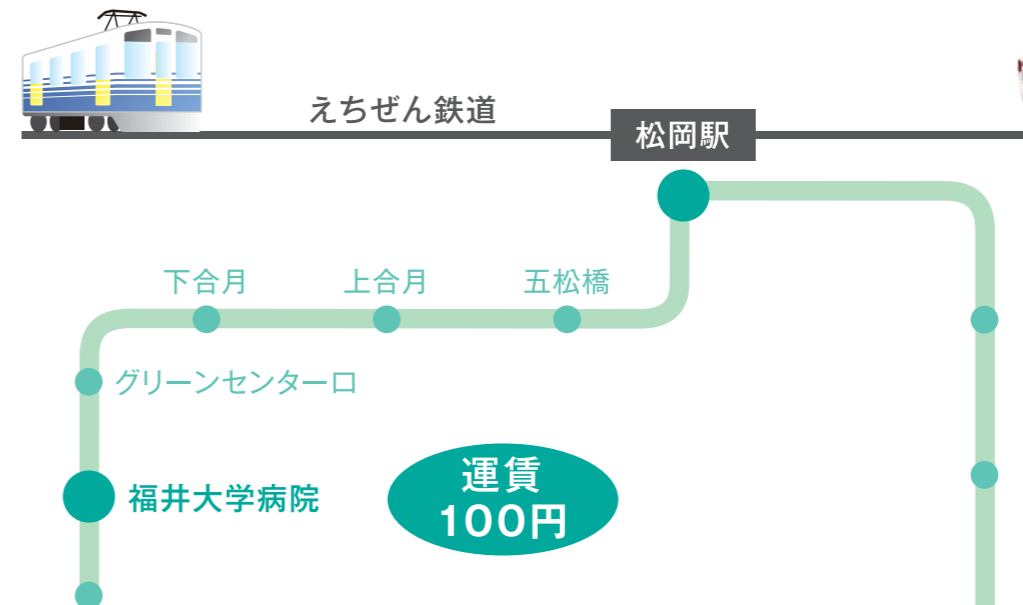
遺伝医療を充実させるためには、専門医の養成が必須です。福井大学は、臨床遺伝専門医研修施設にも学会認定されました(北陸で2番目、他は金沢医大)。現在、数名の医師が研修を行っており、学外からの研修の受け入れも可能です。

今後の抱負

臨床遺伝専門医や遺伝診療科は、東京などの都市部に偏在しております。福井県においても、適切に遺伝医療が浸透してゆき、多くの遺伝で悩まれている方の一助になればと考えております。同時に、臨床遺伝専門医を養成して行ければと考えております。

ワンコインバスの運行について

患者の皆様の要望により、福井大学病院～松岡駅間のバスについては、平成18年4月3日より運賃を100円にして運行しております。



どのバスに乗っても『福井大学病院⇄松岡駅の間で「乗車され降車」された方』は100円です。電車への接続を行うことで便利になっております。※回数券・定期券・小児割引設定はありません。

京福バス・えちぜん鉄道接続時刻表

行 き				
えちぜん鉄道 (接続列車のみ掲載)		京福バス運行時刻 (全便平日のみ運行) 運賃100円		
始発駅: 福井 松岡駅着	始発駅: 勝山 松岡駅着	松岡駅発	▶	福井大学 病院着
7:24	7:23	7:30	▶	7:38
	7:34			
7:55	7:46	7:59	▶	8:05
8:07	8:08	8:13	▶	8:19
		8:22	▶	8:28
8:24		8:32	▶	8:38
8:47	8:37	8:50	▶	8:57
	8:57			
9:14	9:24	9:27	▶	9:33
9:44	9:54	9:58	▶	10:04
10:14	10:24	10:28	▶	10:34
10:44	10:54	11:00	▶	11:07
11:14	11:24	11:28	▶	11:34
11:44	11:54	11:58	▶	12:04
12:14	12:24	12:28	▶	12:34
12:44	12:54	13:00	▶	13:07
13:14	13:24	13:28	▶	13:34
13:44	13:54			
14:14	14:24	14:28	▶	14:34
14:44	14:54			
15:14	15:24	15:30	▶	15:37
15:44	15:54			
16:14	16:24			
16:44	16:54			
17:14	17:24	17:30	▶	17:37
17:44	17:54			
18:14	18:24			
18:44	18:54	19:00	▶	19:07

帰 り				
京福バス運行時刻 (全便平日のみ運行) 運賃100円		えちぜん鉄道 (接続列車のみ掲載)		
福井大学 病院発	▶	松岡駅着	始発駅: 福井 松岡駅発	始発駅: 勝山 松岡駅発
7:14	▶	7:20	7:24	7:24
			7:34	
			7:47	7:56
7:52	▶	7:59	8:09	8:08
				8:25
8:20	▶	8:27	8:38	
8:34	▶	8:40	8:57	8:47
			9:25	9:15
9:35	▶	9:42	9:55	9:45
10:05	▶	10:12	10:25	10:15
10:35	▶	10:42		10:45
10:44	▶	10:50	10:55	
11:05	▶	11:11	11:25	11:15
11:35	▶	11:42	11:55	11:45
12:05	▶	12:12	12:25	12:15
12:35	▶	12:42		12:45
12:44	▶	12:50	12:55	
13:05	▶	13:12	13:25	13:15
13:35	▶	13:42	13:55	13:45
14:05	▶	14:11	14:25	14:15
14:35	▶	14:42	14:55	14:45
15:04	▶	15:10	15:25	15:15
			15:55	15:45
			16:25	16:15
			16:55	16:45
17:04	▶	17:10	17:25	17:15
			17:55	17:45
			18:25	18:15
18:34	▶	18:40	18:55	18:45

患者さんのこえ

ここでは、患者さんから寄せられた『ご意見』や『ご質問』に対してお答えしていきます。
また、今後もご意見やご質問を受け付けております。
お気軽にご投稿ください。

よろず相談窓口で
ご意見やご質問を
受け付けております

患者さんの声

清掃について

フロアのゴミをもっと少なく
して欲しい。窓が汚い。

お返事

貴重なご意見をいただきありがとうございました。
多くの方が出入りされる場所を中心に、もう一度清掃方法を徹底しました。
なお、窓につきましては窓ガラス清掃を定期的に行っておりますが、特に汚れている窓については定期清掃の時期を待たずに清掃することといたしました。

患者さんの声

ハートフルマーク について

ハートフルマークを持っているのに、
なぜ身障者駐車場に停められないのか？

お返事

大変ご不便をお掛けし、申し訳ありませんでした。
本院では、病院正面近くに身体障害者専用並びに身体障害者用の駐車場を配置し、平日の午前中、警備員が車両の誘導及び交通整理を行っております。
本院では、福井県が開始した「ハートフル専用パーキング利用証制度」の趣旨に則り、身障者用の駐車場が空いている場合、ハートフル利用証をお持ちの方は身障者等と見做し、身障者用の駐車場をご利用いただく運用といたしましたので、ご利用くださいますようお願い申し上げます。

患者さんの声

看護師の言葉使い について

看護師の言葉使いが気になる。看護
とは心のケアも必要。業務的な言葉
使いで言われると不安になる。看護師
の態度や言葉使いを徹底して欲しい。

お返事

常日頃から接遇に関して配慮しているところですが、今回のように業務的な言葉使い等で患者さんに不愉快な思いをさせたことにつきまして、大変申し訳ありませんでした。
今後は、入院されている患者さんの心配や不安を理解し、安心して治療等を受けられるよう環境を整え、態度や言葉使いに配慮してまいりたいと思います。

感謝の言葉について

患者さんの声

- 新駐車場にかかるグレーチングの取替えをしていただき、ありがとうございました。車椅子の走行もスムーズにできるようになりました。
- 本日、無事に大地を踏みしめられるようになりましたことは、担当の先生を始め看護師の方々、関係スタッフの日夜のお力があればこそと感謝申し上げます。
医学・医療の世界も日進月歩ですごいものを感じます。看護・施術・投薬全て本人確認がなされているので、安心して治療が受けられます。
先人の言葉がともすれば忘れられ勝ちな当世ですが、「医は仁術なり」とナイチンゲールの「誓いの言葉」を大切に日々精進されますよう祈念します。

出来事

平成21年5月～平成21年10月

5/1(金)17:00～18:00 (医学部附属病院 臨床大講義室)
院内における新型インフルエンザの対応説明会

【内容】院内における新型インフルエンザの対応
講師:医療安全制御センター 感染制御部長 岩崎 博道 氏

5/20(水)19:00～20:00 (臨床教育研修センター 白翁会ホール)
がん診療推進センター特別講演会

【テーマ】がん診療における漢方の役割
講師:金沢医科大学 腫瘍内科学教授
集学的がん治療センター長 元雄 良治 氏

5/21(木)18:00～19:30 (医学部附属病院 臨床大講義室)
医薬品の安全管理に関する講演会

【テーマ】製薬企業における安全性情報の取り扱い
副作用収集からフィードバックまで
講師:日薬連 安全性委員会 委員長
第一三共株式会社 前安全性情報部長 高橋 千代美 氏

6/16(火)17:30～18:30 (医学部附属病院 臨床大講義室)
医療環境制御センター研修会

【テーマ】1. オカレンスの警鐘事例紹介
講師:医療安全管理部 副看護部長 伊藤 幸子 氏
【テーマ】2. 注射・内服のオカレンスに繋がりにくい
オーダーの方法と指示の受け方
講師:薬剤部 薬剤主任 佐々木 逸美 氏

【テーマ】3. MRI検査のオカレンスを生かした同意書の変更
講師:放射線部 副部長 坂井 豊彦 氏

6/18(木)19:00～20:00 (臨床研究研修センター 白翁会ホール)
がん診療講習会

【テーマ】オピオイドの使い方
各オピオイド製品の使い方、注意点など各社MRに説明
講師:田辺三菱製薬、藤本製薬、武田薬品、
大日本住友、塩野義製薬、ヤンセンファーマ

6/25(木)17:30～18:30 (医学部附属病院 臨床大講義室)
治験および臨床研究に関する講習会

【テーマ】治験および臨床研究を実施するために必要な基礎知識
講師:薬剤部 薬剤主任 渡邊 享平 氏

7/9(木)18:30～19:40 (臨床研究研修センター 白翁会ホール)
がん診療講習会

【テーマ】がん疼痛に対するオピオイド鎮痛薬の安全で効果的な使用方法
講師:新潟市民病院 地域医療部長・
外科部長・緩和ケアチーム顧問 片柳 憲雄 氏

7/22(水)18:00～ (医学部附属病院 臨床大講義室)
医療環境制御センター研修会

【テーマ】抗がん剤イレッサ・副作用被害の概説
講師:イレッサ薬害被害者の会 近澤 昭雄 氏

7/25(土)9:00～16:00 (臨床教育研修センター)
院内メディカルラリー

参加者:午前 西病棟2～7階(6チーム)
午後 東病棟2～7階(6チーム)

7/30(木)11:00～14:00 (医学部附属病院 臨床大講義室手前のロビー)
癒しのお茶会(夏の催し)

8/1(土)13:00～16:00 (臨床教育研修センター 白翁会ホール)
がん体験者の会(みのり会)の8月定例会

【内容】講演「私の「がん」体験」
落語 はやおき亭 貞九郎 氏
交流会

8/4(火)17:30～18:30 (医学部附属病院 臨床大講義室)
診療支援部講演会

【テーマ】医療の質を可視化して経営に生かす!
講師:米国グローバルヘルス研究所 理事長 アキ よしかわ 氏

8/20(木)17:30～19:00 (臨床教育研修センター 白翁会ホール)
第1回診療支援部医療安全研修会

【内容】医療安全総論「現場の気づきと安全文化への取り組み」
診療支援部 副部長 東村 享治 氏
事例報告:「放射線部部門医療安全への取り組み」
安全連絡部員 杉本 勝也 氏

8/24(月)17:30～18:30 (医学部附属病院 臨床大講義室)
医療環境制御センター研修会

【テーマ】院内感染対策1
「新型インフルエンザの対応と感染対策について」
講師:感染制御部

9/7(月)11:00～11:30 (臨床教育研修センター 白翁会ホール)
「葉っぱのフレディ」講演会

【内容】スライド映像、朗読とピアノによる「葉っぱのフレディ」
出演:竹下 景子 氏(朗読) 寛 千佳子 氏(ピアノ)

9/24(木)19:00～20:00 (臨床教育研修センター 白翁会ホール)
がん診療講習会

【テーマ】がん治療補助薬の使い方
1. ゾメタ 2. サンドスタチン 3. カロナール

10/2(金)17:30～19:00 (医学部附属病院 臨床大講義室)
院内感染対策研修会

【テーマ】院内感染対策2「HIV診療と看護の現状」
講師:感染制御部長 他4名

10/20(火)～29(木) (臨床教育研修センター)
「日本一短い手紙」と「かまぼこ板の絵」の物語 コラボ展
福井大学共催

12/12(土)
13:30~16:00

ひらめき☆ときめき サイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI

講師 佐藤 真(生命科学複合研究教育センター センター長)
場所 未定 定員 未定 対象 一般 受講料 無料

12/19(土)
10:00~12:30

福井大学発 最先端研究～明日への挑戦～ Part5 1分子の蛋白質がはたらく姿をムービーで捉える

講師 老木 成稔(医学部形態機能医科学講座 分子生理学 教授)
場所 福井大学総合研究棟I 13階 会議室 定員 150名 対象 一般 受講料 無料

1/23(水・祝)、24(木)
13:00~15:00

わくわく物理実験室(冬季)

講師 田村 圭介(生命情報医学講座 教授)、他 場所 福井大学医学部 講義棟2階 物理学実習室
定員 20名 対象 小学生~高校生 受講料 無料

2月開催
10:00~12:30

福井大学発 最先端研究～明日への挑戦～Part6 細胞と分子のおりなす知能発達・脳の形成・発達研究でわかったこと

講師 佐藤 真(生命科学複合研究教育センター センター長)
場所 福井大学(文京キャンパス) 定員 150名 対象 一般 受講料 無料

2月開催
13:00~17:00

薬剤師の仕事を知ろう Part4

講師 政田 幹夫(医学部附属病院 薬剤部長(教授)) 中村 敏明(医学部附属病院 薬剤部副部長(講師))
場所 福井大学医学部附属病院薬剤部 定員 20名 対象 一般 受講料 無料

イベント情報に関する問合せ先

福井大学地域貢献推進センター
(福井大学総務部総務課社会連携係)

TEL : 0776-27-8060
<http://tiiki.ab.fukui-u.ac.jp/facp/>

編集後記

涼しかった今年の夏、新型インフルエンザで一時的に全国が混乱、本院でも、あらゆる場合の対応を想定しかなり緊迫した時期もありました。

本院では、医療環境制御センターを中心に感染対策を行っており、今回も情報収集や病院スタッフへの対応の周知などを実施しました。本格的な冬へ向けて、病院スタッフにとって警戒心を持ちながらの日々となっています。

さて、今回の表紙には医療ソーシャルワーカーに登場してもらいました。患者さんが直面する経済的な問題や社会復帰に関することなど社会生活上の問題について

相談に応じ解決に導くのが彼らの仕事です。「いつでも会いに来てください。【愛】」とのことでした。

さて、広報室では、この「病院だより」を患者さんをはじめとする地域の皆さんに本院を知っていただくことを目的に作成しています。わかりやすく、皆さんに興味のある内容をモットーに作成しているのですが…。出来上がってみると、なんとなくお堅い内容となってしまってるようです。現在の私たちに与えられたテーマは”より親しみやすい病院だより”です。みなさんの暖かいご意見、ご要望をお待ちしています。

広報室



福井大学医学部附属病院
広報委員会

〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23-3
広報に関するご意見、ご要望をお寄せください。
TEL:0776-61-8615
Email:bkoho@ml.ccns.u-fukui.ac.jp

ISO9001:2000
認証登録証

登録日
2003年9月10日

「ISO」は、国際標準化機構
(International Organization
for Standardization)の略称

です。福井大学医学部附属病院では、「医療サービスの提供」について、「品質保証の仕組みの国際的な標準規格」に基づく認証を受け、「透明性・立証性・公平性・信頼性」に対する継続的な取り組みを通じて、患者様に安心で満足していく医療を提供しています。

